

平成 28 年度島田市子ども・子育て会議 議事要録

【日 時】平成 29 年 3 月 22 日(水) 午前 10 時～11 時 15 分

【場 所】会議棟 大会議室

【出 席】永田委員長、大石副委員長、山口委員、紅林委員、佐藤委員、杉本委員、坂田委員、池谷委員、菊池委員、杉山委員、五藤委員代理

【欠 席】石橋委員、青野委員、長田委員、岩邊委員

開会

(事務局)

開会の挨拶

(**委員)

みなさん改めまして、こんにちは。島田市子ども・子育て会議を始めさせて頂きたいと思います。みなさん久しぶりでございます。3月の行事、卒園とか卒業とかお忙しい時期だと思いますし、お子さんもいらっしゃる方もいらっしゃると思いますし、とてもお忙しい時期だと思いますが本当に来て頂いてありがとうございます。本日は審議案件が2件、報告案件が2件ということなのでサクサクと進めさせて頂きたいと思います。それでは審議案件の1の幼稚園の認定こども園移行について審議していきたいと思います。

お願いします。

(事務局)

説明

(**委員)

ありがとうございました。審議案件1幼稚園の認定こども園移行についてと小規模保育の開設について。この件についてお母さん方と話をしたことが多かった、幼稚園や認定こども園と話をしたところなんです。何か質問ありますか？

(**委員)

今テレビでずいぶん姫路の認定こども園さんが話題になっているものですから、新しく認定こども園さんに当たっては良く言う食育となるものですから、建物も新しく施設が変わるということもありますので、また給食関係というのかその部分も重々気を付けて頂けるように行政の方からも見て頂ければありがたいなと思いますし、また小規模の方ですけど012とお話を聞いておりますけども、その後の345という子ども達になった時には、どういう形、また幼稚園の定員もありますので、そちらに行かれるのかなと但し012の方は保育園を希望だったとことで、当然3歳月からご意見を希望なさる方だと思っておりますので、その場合は2号認定という形になるものですから、それもまた市の方でどういう判断を示しながら、各園に振り分けるのかなと思いましたが、その辺がまた分かれば教えて頂きたいと思っておりますけども。

(**委員)

ありがとうございました。姫路の先ほど私もニュースで見てきたんですけども本当にひどいなと思って来たものですから、そういう事が無いように給食をちゃんとして欲しいということと。小規模の保育所については、2歳から3歳児になったら保育所ってということもあるんじゃないかという事で、どういうふうに市が考えているかということですよ？宜しいでしょうか？

(事務局)

はい。今回ですね、あの3歳以上についてですが、一方でその例えば向谷に出来る所が0~2歳児が中心にいます。なごみ保育園も0~2歳児。当然そういう方が2歳で卒園し今度3歳で受け入れが出来なくなってしまうと困るものですから、ある意味そういった方が優先的に保育所を利用できる形を市の方としては考えておりますので、2歳まで入れたけど3歳になったら入れなかったよとならないように、支援したいと考えておりますし、島田中央学園さんについては、そういった形で80人施設規模ということですが、多少ちょっと改修で受け入れの余裕をもたせているところがありますので、場合によっては弾力化を少し考えていきたいなと考えていますので、こちらについて宜しくお願いします。

(**委員)

ありがとうございました。他にご意見があれば。

(**委員)

一つお聞きしたいのが、最初のこの認定。初倉のみどり幼稚園が一番最初に手を上げたじゃないですか？で、このタイミングでドバっとこういう風に一気に幼稚園さんがそういう形に変わってくるという中で、そういう風になる判断基準が何だったのか？っていうのと、後そこに通わせている親御さん達への説明がちゃんとあったのか？がそもそも気になるところです。ていうのが実際通われている親御さんと接することがありまして、なんか良くわからない。何がメリットなのか？何が何なのか？で幼稚園の保育料が上がったから、こういう事になることによって、デメリットに感じている親御さんもいらっしゃるですね。そういう事を考えると国の方針もそうなんですけど、地域としてもこういう風になる事が、しいては子ども達にこういう風になるんだよと説明がちゃんとされているか？がちよっと気になりました。その辺はどうなんですかね？

(事務局)

私どもの方で、直接の説明をしている訳じゃないですけども、基本的には各法人の方で認定こども園に移行していきますよという説明は保護者の方に伝えていと聞いています。あと島田学園さんにつきましては、地元の説明会ですね。ちょっと内容的には建物が建つと言って、例えばそこに保護者の方がいないので、そういう話しになってないものですから、直接そこで保護者の方の意見というのをこちら聞いてないんですけども。あの説明会をやる中では、島田学園さんの方から何か分からないというような話は、こちらの方に届いてないものから、

ただ基本的には、認定こども園に移行するということは例えば、親が就労をしている方が就労を辞めた時に、通常保育園であれば保育園やめなければいけなくなって、その子が3歳であれば幼稚園に行くんですが。認定こども園であれば保育園部に行ったら子が幼稚園部に移ることによって、子どもについては園が変わることがなく、ストレスというか、園も変わることなく引き続き通える、ただ保育する時間が短くなるということにはなるんですけども。子どもにとってはそういった所はメリットということにもなりますし、保護者についても同じ所に通わせられるというのは便利ということで、ここは認定こども園のメリットという一番大きなメリットと考えていますので、良いのかなと考えています。あとは島田市内にある幼稚園については、子ども子育て支援制度が27年度にスタートしたのですが、既存の幼稚園は全て新制度に移行してないんですね。移行する・しないは自由なんですけども、今度認定こども園になると認定こども園の中には保育園部と幼稚園部があります。その幼稚園も保育園両方ですね新制度に移行していく形になるものですから、今度はそうなりますと市の方が皆さんの所得に応じた保育料ですね。保育園部も幼稚園部も、この人は所得税・住民税がいくらなら保育料いくらですよと、そういう形での保育料の設定となってきます。今の制度ですと幼稚園の方は就園奨励費というもので、お金が所得に応

じて返還金があつたりなかったりするんですが、今度支援制度で認定こども園に移って、そこに通う幼稚園部の方については最初から所得に応じた保育料を納めて頂く事になりますので、そういったところについても特段、市の方では保護者の方にとって大きく不利なるということはありませんと考えています。

(**委員)

ありがとうございました。聞いてちょっとホッとしました。そこだけで子どもに負担が掛かるといけないということがありますが、園を変わらなくてもいいよということと働きに行ったりするとか色んな事情があつても園を変わらなくてもいいよということだったり、何にしても保育料がそんなに変わらないという事があればいいのかなとちょっと感じています。色んな意見があるとは思いますが、大人の事情だけで子どもを振り回すっていうのはいけないなど、それは**さんが言われてるんじゃないかなと思いました。

他にご意見があれば、どんどん出して頂いて。

(**委員)

今ここで申し上げることじゃないかもしれないですけど、以前掛川に一番最初の頃に認定こども園が出来て、そこに見学に行った事があります。その時にも私が説明を受けて自分が理解できなかったんだろうなとも思うんですけども、今そこと違っているのか確認したいことがあるんですけども、建物の中に保育園部と幼稚園部と別々に分かれていて全然別だつて認識イメージがあつたので、全然別。人も別。場所も別。私の中では一貫型と違って、交流もあつたり先生方も同じように見れるような多少な部分組織があるのかなと思つたら、全然別。建物の中に仕切られて2つあるだけの感覚で帰つてきた。それが良いとか悪いとかじゃなくて、それで今その辺が今もそうなのか？

(**委員)

これ掛川のなんという園か忘れてしまったんですが、私も行った事があつて保育所は社会福祉法人が運営してて幼稚園は学校法人が運営しているということなんですが、これはずいぶん昔の。

(事務局)

例えば今はみどり認定こども園さんがやられていますので、学校法人で。

(**委員)

それともう一つ、中央幼稚園さん500名現在というのが260定員。定員が260って事になるんですか？

(**委員)

そうですね。幼稚園代表で来てる訳じゃないですけど、その通りでございます。島田市の子どもの減少という市も出してると思いますが、これからまた今後10年間人口減少みたいなものがあるものですから、それをかんかみるとやはり定数は下げていかなくちゃいけないのかなと、それからもう一つは幼稚園と違って認定こども園というのは満3歳児においては一クラス20人という決まりがあるものですから、キリが良いと言つたら申し訳ないですけども、各部屋20・20・20とくると5クラスあれば100名と。4クラスになるので、そこに2号のお子さんが入ると丁度中央の場合は80名との計算ですので、1学年4クラスだよということを考えると、やはりこういう人数に成らざるおえないのかと思うところですけども。

(杉山委員)

元々幼稚園さんの場合定員が決まってるんですけども、もうすでにその定員まで満たない利用者数になっていますので、その辺も関係あるかなと思います。

(**委員)

あくまで定員が500名で今年現在で330人ぐらいで、またさらに卒園時と新入園児が違うんですかね。数字が。大体この数字っていうのは大体これから平均されてくるのかなと思います。当初は在園児がいるものから、

この定数よりまだ園児数が多いですけども、3年後にはこの定数に落ち着いてくるのかなと思っています。

(**委員)

わかりました。少子化を見越してと。

(**委員)

そうですね。また学園さんと違って既存年初だもんですから。やはりどうしても認定減に改修は致しますけどもクラスとか今までは人数だったから、部屋面積であるとか。色々認定案になると難しいものですから。それ考えると、この数字が妥当なものじゃないかなと考えているところですけど。

(**委員)

今保育園って、各保育園手一杯小さい子達を受け入れております。本当に特に0歳1歳の今年の入所のお母さん達の勤務状況を見ると、育休あけで正規職員でフルタイムで働かれています。本当に今おじいちゃんおばあちゃん達とも離れて暮らして二人で頑張っているそういう御家庭が凄く父兄の保護者の中で増えているなど思いはあります。そうすると、やっぱりお母さん達からの気持ち支援センターとかに来てお母さん達の気持ちを思うとフルタイムではなくても、少しは働きたいよとか、そんな全部じゃなくても半分半分ぐらいの働きをしたいよとか何かその辺が今の保育園の中で保育点数によって入所があると保育園でそういう方が今少ないなっていう思いが、少なくなっているなって割合がいう感じがして、そういうのが幼稚園の中の認定の幅を広げて下さるかとか中でね島田市内の色々なお母さんのニーズに答える体制になっていくのかな？って思ったりもしています。一時保育の明暗も掛かってくるんです。上が幼稚園に行ってるんですけども、下の子の仕事の時についていう所が、本当に目一杯目一杯受け入れているものですから、ごめんなさいね。その日突然誰かが休めば面積があるんですけど、もう面積ないんですよとか、面積って何ですか？って話からするんですけども、そういうところでね本当にお母さん達の社会と関わりたいニーズって対応化しているなって私本当に支援センターのお母さんと話すと思うことがあって保育園だけでは賄いきれないのが保育園として重々承知ですので、色々な対応な形態と連携しながらやっていけたらいいなって思っています。

(**委員)

ありがとうございます。女性の色々な考え方もありますし、保護者のニーズも色々あると思います。弾力性のある考え方で子どもを見てもらえるってありがたいと思います。保育園も一杯一杯

(**委員)

一杯一杯なんですよ。もうそれ以上やれって言われたらどうしようという感じなので。やっぱり色々な対応の教育機会があり機関を使って柔軟的にやっていって、やっぱり連携しながらやっていくのが良いと思うんですけどね、やっぱり年金ってところがこれからの課題かなって実は思っています。静岡市とか、やっぱり小規模が凄く増えている市町の園長先生たちとか、それから保育園からこども園になったところの考え方と幼稚園からこども園になったところの考え方の空気感って言ったら難しい所があるんですけども、そういうところで私達も壁をだんだん低くしながら新しい指針では教育部門も、どういう風に入れてかなきゃなんないかってところでは幼稚園の考え方私達ももっともっと学ばなければならぬと思うし、幼稚園部に保育園が出来るとして事は保育園の考え方、乳児の保育が可哀想な子たちって見ないで集団の中で凄くたくましく生きてく力を作るんだっていう見方を、やっぱりだんだんやっていけたら良いなって思っています。

(**委員)

ありがとうございます。平成20年に保育所保育指針と幼稚園教育要領一緒に変わりましたので、そこから合わせようと同じようなことを合わせて、今まで全く別々だったんですけど合わせて平成30年には本当に一緒に乗って、幼保連携型認定こども園の教育保育要領も一緒に走るという事なので、やっぱりめちゃめち

や変わらない。

(**委員)

一緒になると思います。

(**委員)

そうなんですよね。そうってるんです。なのでそういったところで連携しやすくなってきてるのではないかと思います。他に何か？はい**さん

(**委員)

私、今、保育園に子どもが行っていて、小学校にも行ってるんですけども、こども園に移行する話を全然知らなかったんですけど、それは何で？一般の人っていうか、私の妹も今ちっちゃい子どもを1才の子どもを育てて将来的に保育園に預けて働きたいとか言ってるんですけど、多分このこども園の話とか全然知らないんですけど、何でなってこうなったのか？

(**委員)

これは一応流れがありまして、審議をして会議で通してから発表される

(**委員)

じゃあ、まだ発表されていない。これ30年の4月1日からですよ。今入っている子どもの保護者さんとかも

(**委員)

どうですか？

(事務局)

島田学園さんでは、こども園化するということを多分保護者の方に説明しているはずですよ。理事会に掛けて、そこで通過して、その後に保護者の方に移行していくよっていう事は説明はしてあげていると口頭では報告を受けていますので。

(**委員)

今年保育園に応募して落ちちゃったお母さんがいて、3歳児で入る予定だったんですけど、急遽1月に幼稚園に返事頂いて、幼稚園に手続きして凄く大変だったとかって話を聞いて、本当は保育園に入れたかったんですけど、ちょっと無理だったんだよ話を聞いたんですけど、多分これ知ってたら幼稚園もちょっと選び方も違ったのかなって、それを知ってるのかも知らないんですけど、そのお母さんが全然あの今知らなかったんで、良いなって思う反面今入っているお母さんでこっちの幼稚園に入れていけば良かったっていう人がいるかもしれないなって思ったんですけど。

(**委員)

そうですね。いろんな選び方もあると思うので、個人によって希望も色々違うと思いますし、そういうのはやっぱり市の方に相談して頂けると一番良いんじゃないかなって思います。

(**委員)

とりあえず、まだみんな知らない話しなんですか？一般のお母さんっていうか。

(**委員)

学園幼稚園がこども園になるとは、多分お母さんの口コミとかで流れてきて、私には聞こえてきたというか又聞きできてるので、中央幼稚園の話はまだみんな知らない話だと思います。多分地域の人にはこう説明があったりとか新校舎建てたりとか、多分うわさが。

(**委員)

多分ねえ市役所のみなさんはもちろん知ってらっしゃるし、本当に普通のお母さんなんで、何かそうなんだっていう、なんかもっと早く分かるんじゃないのかなって勝手に思ったんですけど。

(**委員)

はい。そういうのは口コミで、今はLINEとかで早いんで学生とかもめちゃくちゃ早く情報を知っているんです。

それがいいかはわかりませんが、いろいろ市の方に相談していただいたらいいです。

(**委員)

広報に少しだけ載りましたよね。認定こども園について、見ていない人にとってはこの文字自体が疑問なんです。よく聞かれるんです。幼保連携型と幼稚園型どう違うのかとか。下手な事は言えないので、さらっと答えて後はネットで調べてって言うんですが、情報がお母さん達に届いていないのが一番の問題だと思います。変に伝わってマイナスにとられて保育園にいれるより幼稚園にいれるほうが良いとなるとおかしなことになると思うので、伝達方法考えたほうがいいのではないのでしょうか？

(事務局)

ホームページ等で。島田市内で認定こども園が一園しかないので、認定こども園の制度が平成 18 年度から出てきて、その時は色々ハードルが高くてなかったのですが、国の制度が変わって島田市内もみどり認定こども園が平成 26 年に移行された経緯があります。藤枝が二園で焼津はなかったりとか、普及はしているが、それほど大きく普及はしていないので、正直私たちも認定こども園はタイプが 4 種類あるんですが、一般的には幼保連携型なんですけど、今回で言えば幼保連携型と幼稚園型のこども園を二園づつ整備する予定ですが、ぼくも正直わかりづらいところがあって、簡単に言えば幼保連携型は幼稚園と保育園が対等の形で一つになったと考えていただきたいと思います。幼稚園型の認定こども園は幼稚園に認可外保育施設がついたような考え方で、保護者の方が預けるにあたっては、なんら問題はない。幼保連携型の認定こども園は保育士の基準とかが厳しい面があるが、保護者の方が子どもを預けるにあたっては、何か違うわけではないので、それほどこども園の体系は気にしなくて言いと思うし、さっき話したとおりにデメリットよりメリットの方があつた。保育園から幼稚園に代わらなくてもいいというメリットがあるので、今後はホームページ等もう少しわかりやすく周知していきます。

(**委員)

まず、給食とかがありますし、保育士とかの配置がありますので、すごいそれこそ誰か余ってないかと相談されることも多々あります。職員の配置もかなりしっかりしているっていうのはあります。そういうところを知られたいのかなと思うんで、ぜひ杉本さんが作っていただけるといいのかなと思う。逆に親の目線から作っていただけると、こういうところは安心できるよって、みたいなのがいいのではないのでしょうか。

(**委員)

選択肢が増えるよって考えると親側も前向きになれると思うので。

(**委員)

保育所だけが預ける場所ではないって思えばそんなにあせらずにすむってこともあるので、親の目線を考えて紹介していただけるといいのかなあと思います。

(菊池委員)

情報の伝達という点での意見ですけど、本当に自分自身が思っている理想とすればですね、例えばですねホームページで硬いかもかもしれませんが保育園の事とかですね、保育支援課の事ってところに登録しておけば、そこにアップしたり情報を変えたりするときに自動的に届くっていうのが、いいなあと思っているんですね。広報すべてと思っているんですけど、よその課の話になってしまうし力もないので、それで子育て全般というところで、「しまいく」というサイトはご存知だと思いますが、ここのトピックスのところをですね、LINE 登録していただければ毎週 1 回お送りするようなシステムを作ったばかりで、まだ 300 人を超えたぐらいですが、どんどん増えていますので、そこに全ての情報を、量が増えればカテゴリーをわけていかなければいけないなあと思っておりますけど、どんどん流していきたいので、広めていただきたいなあと思っております。取りにきていただくのではなく、こっちから流していくってことをしていきたいと思っております。

(**委員)

県の調査を、去年の夏に、子育てニーズをやったんですけど情報が多すぎて混乱するという人もあつたので、やっぱりそこらへんを保育でもするのが大事です。いいのを作っていただきたいと思っております。

(**委員)

私たち保育の関係者でも、今、認定制度が入ったり子ども園化が入ったり、すごく時代が動いているときかなって思います。保護者の方からすると、兄のときにはなかったことが弟のときにはあったり、自分達のときとは全然違う時代にいると認識を持つのも、自分も時代が動いているんだって思いますし、その悪い方向に動くのではなく、さっき言ったように保護者の方からすると多面的に選択できたりとか、私は本当に保育園は厚労省で、幼稚園は文科省で、保護者の方が保育園か幼稚園かを選ぶ以上に厚い壁がそこにあって、面倒な事をしているよなって思う事がすごくいっぱいあったので、島田市でも保育支援課のなかに保育園係と幼稚園係があるんですよね。

(杉山委員)

幼稚園保育園係が一つです。

(**委員)

それでさえ凄く画期的って思うぐらい遠く離れた幼稚園と保育園だった関係にいる人間はね、たまたま**先生のところとは、お寺の宗派が一緒なので、関係がありますが、もしかしたらキリスト教関係ではキリスト教の幼稚園と保育園があるかもしれないし、曹洞宗では永平寺での研修があったりとか不思議な別の関係があるので、そういう別のルートの関係があるんですけど、ほとんどのところは厚い壁があるっていうのが、時代で壁がだんだん低くなったり薄くなったりする方向になって、又その時代も発信していかなければならないですよ。私は流れは不安だけでなくいい方向もあるのかなって、関係者としては思っています。

(**委員)

**先生、まとめていただいてありがとうございます。このぐらいでよろしいですかね。特に問題と思う事があれば市役所にご連絡いただきたいと思います。それではよろしいですかね。報告案件に移りたいと思います。お願いします。

(事務局)

説明

(**委員)

はい。ありがとうございます。島田市立かわね保育園が民営化されるということですが、何か質問はありますか？

(**委員)

園長の大石ががんばっています。それこそ、川根という地域を思うと保育園ではなく、こども園の方が地域性にあっているのかなってことは思いつつも民営化とともに子ども園というところの、それこそ利用者の方の不安感をあおってしまうのも、どうかなあっと思っていますので、今後、制度がどんなふうになっていくかを見越しながら、やっぱり保育園も子ども園化をさけられない方向かなって思っていますが、まずは地域の皆さんに信頼されるように、がんばっていきます。

(**委員)

親が混乱したり子どもが不自由になったりしないような移行をしていただきたいと思います。

それでは、次の案件をお願いします。

(事務局)

説明

(**委員)

ありがとうございました。子育て世代包括センターということですが、県の方もものすごく大事に思っていて、継続してみたいので県も推している事業で、成功させていただきたいと思います。これについて何かご

意見がございますか。

(**委員)

こういうふうになっているんだと、つくづく感じるのが、子育て支援のコンシェルジュの対応をみていると、本当に親身になって、問題があったりストレスがあったりという人たちを必ずとらえてっていう目を持っているということをつくづく感じています。これを見てなるほどなって思いました。

(**委員)

**さんはいかがですか。ストレスが溜まるといけませんので。

(**委員)

障害を持った子のお母さん達に聞く事が多いのですが、うちの子のように重度だったり、車椅子に乗っていたり、見てわかる子のほうがお母さんはわかってもらえるという安心感があります。発達障害だったり自閉症の子の場合は、まだ自分の子は目があわないなあとか、1歳2歳のときにコミュニケーションがとりにくいなあとか、不安をかかえているお母さんが、何歳時健診とかにいけますと、自分の子どもばかりが走りまわったりとか、そういう時に、実際に聞いたお母さんの話ですが、保健師さんの面談でズバツと言われちゃったと。お母さんにとっては初めての経験でわからなくて、いきなり言われたので、自閉症っぽいねとか。言葉がささっちゃったと言うんですよ。保健師さんは何人もの子を見て、その豊富な経験から話をされるもんだから結構淡々と行って、なのでねその辺のギャップがあるみたいなんという事を当事者のお母さんの立場に立ってみると本当に難しい事と思うんですけど、そこは傷ついたっていう言葉が、まあやっぱりお母さんから聞くんです。そうですね、なのでドクターもそうなんですけどズバズバ厳しいことを淡々と説明しなきゃいけないんだけど、でもこっちとしては、いやもうちょっと何ていうかオブラートに包んでっていう事があって、それずっとやっぱり引きずってしまって本当に落ち込んだり事があるので、そういう当事者の気持ちがあるんだ、中々それは保健師さんに向かっては傷つきましたってなんて絶対言えないのでね当事者同士の親の中で、ちょっとショックだったよね話は裏です話なので、そういう事があるんだっていうのをどこかに置きながら話を聞いて頂けるとありがたいかなって思います。

(**委員)

そうですね。専門家にありがちなところだとは思いますが、特にやっぱりたくさん症例を診てらっしゃる専門家の人たちは、あって直ぐにね気が付かれて、でも当事者の事を考えてもう少し伝え方があるんじゃないかって所ですよ。まあ職員研修のところをもう少し厚くっていうような事とか。ていう話しですよ。これは保育士さんもそうですね。保育士さんも幼稚園の先生たちも障害のある子ども達を見たときにズバっていう、もう直ぐ分かりますもんね専門家ですから、見てると他のお子さんとか明らかに違うとか、お兄ちゃんもそうだったよね兄弟で、やっぱり障害持ってるんじゃないかなっていうのはわかるんですけど、そういうのも凄く慎重に考えて置かないとですよ。例えばどんな風に？

(**委員)

幼稚園でいえば小学校の勉強も当然ありますし、進級する時にさらに詳しく見ますし、上がる時にも入られる時には面接って訳じゃないけどお話をさせてもらいますのでね、一対一で、そこで色々お話をさせてもらいますし。

(**委員)

そういつもねやっぱりちょっとね時間を掛けてデリケートな話なんで。はい。**先生はどうですか？

(**委員)

難しくて本当**さんがおっしゃるように、本当に難しいなと思いつつも、あのお子さんに無理強いをさせちゃっている所があったりするんで、そこの所の兼ね合いお母さんも何か困り感持っていないっていう所の何かお母さんから、こういう時困っちゃうああいう時困っちゃうって話をなるべく聞きだすようにはしてるんですけどもね。はい。もしかしたら無意識のうちに言ってるかな？って今ちょっと坂田さんの話を聞きながら反省をしました。

(**委員)

そういう場合は言って頂いた方が先生たちも良いのかな～と思います。

(**委員)

お母さんの方から決まったよって言って、先生からやんわりとしたと。難しいですけどね。

(**委員)

あの私自身が聞いたことなんですけれども、自分は初めての子だから子どもってこんなもんなのかって、こんなに大変なのかしらってという思いをずっと持っていて二人目が生まれて、でも下の子は違う上の子はどうしてこんなに大変なんだろうとずっと思ってた。でも保育園の方に働くお母さんの職場とかに、そういう所を少し上手にやんわりと話を言ったんですけど、その時彼女が言ったのがホッとしましたと言って頂いて、この子は私だけの私の育て方が悪かったのではなくて、そういう事だったんだって事をホッとしました。だからお願いしましよって言ってくれた若いお母さんなんですけど、言い方も問題あるかと思いますが、そういう人もいましたね。

(**委員)

お母さんの性格にもよると思うし、サポートのありかたにもよると思うんですよ。ご家族の協力があるかないかとか、ストレスがどの位とか全体的に見て話をして。

(**委員)

ぜひ、そういう職員研修の方をして頂かないと意味がないかと逆にね本末転倒になってしまうんじゃないかなってというのは、ちょっとお聞きして思いました。他にあれば、あと一人ぐらいはどうでしょうか？**さんはどうですか？

(**委員)

相談内容を内容の所で予防接種が一番多いじゃないですか。これは予防接種のスケジュールみたいな感じですか？

(事務局)

予防接種のスケジュール的なものが非常に多いかと思えます。あのモデルスケジュールは赤ちゃんの家庭訪問に行く時に必ず示すんですけども、やはり子どもさんの方もその予定していたスケジュール通り進まないっていう方のほうが多いぐらいです。ただ、あの以前に比べて非常に幼少時期から生後2ヶ月からの予防接種の種類も増えているものですから、それで一つの予防接種によって2回目の間隔が違ったりっていう所あるものですから、そういった所で時間の掛からない相談なんですけども件数としては増えてしまう件数になっているかと思えます。

(**委員)

じゃあ来てスケジュールを。

(事務局)

もちろん来ての方もありますし、電話での相談も入っています。

(**委員)

これから包括支援センターはどんどん活躍して頂かないといけないので、幼稚園も保育園もだけじゃないんですけど、他の関係機関とも連携しながら親子・島田市の親子サポートして頂きたいと思えます。

(**委員)

包括支援センターがワンストップの所になる？それともコンシェルジュさんがワンストップの場所になる？ワンストップとは違う考え方。

(事務局)

どちらも相談窓口ではあります。ですので、そこで受け止めた相談内容それから相談に対する支援体制というのがどちらでも勿論同じようにやっていく形になります。で、窓口としてお母さんからの相談が入ったときにその時点での例えば29年3月時点での今欲しいサービスって何だろうっていう所で。医療機関とも繋がります。コ

ンシエルジュさんとも繋がります。上のお子さん保育園行っていれば保育園さんとも繋がるかもしれない。そんな感じで横、その時点での横の繋がりもありますし、そのお子さんが今3歳だけど4歳5歳っていう流れとしての繋がりも、それはどちらも持っています。ワンストップという言い方が、全てがっていうと少し今は物理的にも本庁内とはなみずきというところで離れてしまっているというところもありますけども、その物理的な距離感というのは作らないようにしていきたいと考えています。

(**委員)

ありがとうございました。他にはどうですか？

(**委員)

乳幼児の相談までが、ここって。このてくてくの中でお願い出来るんですか？

(事務局)

でも、そうですね学校に上がられてからのお子さんの相談も入る事もありますね。あの特に思春期のちょっと拒食的な部分であったり体重増加に凄く気になるであったりとか。夜尿症の関係であったりとか、まあ何歳だから受付ませんという事は全くないです。

(**委員)

わかりました。

(**委員)

宜しいでしょうか？

(**委員)

はい。割と何ていうか小学校に上がる時に、普通の学級に行くのか特別支援のクラスに行くのかっていうので、決断にせまられたお母さんがいらっしゃって、その方がどこにどういう風に相談したら自分の気持ちがスッキリするのか。家族の方はうちの子は普通、絶対に普通だから、そんなところには行きたくないっていう感じでいて、お母さんは、その子に合った無理のない所が望まれたりとかしていて、それも二小に行かなきゃいけないんだけど学区の縛りがあったりとかして、もし最初から特別支援に行ってしまうと元には戻れないよとか、そういうので迷ってる方もいらっしゃたので、その方が通級にいずれの環境とかそういう所に行きたいってなった時も急には行けないよとか。特別支援を進められた方は通級をちょっとダメですよとかっていう話を知らないまま人に聞いて通級に行ってる方が教えて下さる様な場面があったりとかして、そういう所の窓口があれば凄く良いなって思ったので。こういう所に相談すれば聞かせて。

(事務局)

こちらに先ず相談を掛けて頂いてもいいんですが、その場合ですね。子育て応援課の方に発達支援係、発達支援係で宜しかったでしたっけ？

(菊池委員)

こども相談係の中に発達支援担当がいてですね。そのところはもっと充実させようという事で専門職集団、今形成しているんですけども、やっぱり健診があって気になるお子さんがいてですね。そのあと、そのまま発達検査に入るのか集団での行動観察をしてお見立てするっていう、それでふわり行くのか・行かないのかって事もあるんですけども、ふわりに行くとなると障害児受給者証っていうのを持たないといけなので、そこにも抵抗があるっていうのは良くわかるんですね。そのあとやっぱり確かに戻りにくくなるっていうのはあると思うんです。今度ですね 29 年度にですね健診の後で健康づくり課の方で、もうちょっとフォローするようなお母さんに課題があるのか子どもに課題があるのかっていうをちょっと見たりっていうのは新たにやりますし、子育て応援課の方でも 4 歳 5 歳 6 歳今つくしんぼって、その発達に課題を抱えたお子さん行動観察するのは年齢の低いところなんですけど、もうちょっと上の小学校入学される前の年齢の子をですね、もうちょっと見ようという事で、そこがちょっと穴が空いていたような所なので、それをやろうっていう方向になっていますね。

(**委員)

いずみの学級っていうのは2年くらいのわりとスパンで切られてくって聞いて、通級のその先2年終わっちゃうと例えば1年生から行き始めた2年生の終わりでも、それで終わってしまってその先のフォローがちょっと有るのか無いのかっていうのは、通級に通っているお母さんはそこに行っても分からないっていうか、その先が不安になっている方もいらっしゃるしあったのだから、どうなってるんですかね？

(池谷委員)

そうですね。その所は課題で。中学校には通級のシステムがありませんので、行きたくても行けないです。そういうのを僅かですが補おうとして教育センターにたんぼぼというものを設置しました。そういうところに相談に行ったり発達に関するトレーニング等を受けられるようなものを作ってはいるのですが、まだそれも始めたばかりです。隣の藤枝市の方はスループラスという形で放課後にその様な通級に近いシステムを中学校の方に設置しています。そこに希望者の方がいて成果を上げている。ですから全中学校にそういうものがあるのです。そういう面では島田市の方はまだそこまで行ってない状況はあります。これからの課題ではありますが、たんぼぼという形で通級終わった小学生又中学生年代の方を支援しようとしているところです。教育センターの充実を今図っているところです。

(**委員)

ありがとうございました。

(菊池委員)

ちょっと補足なんですけど、生まれてからですね。ずっとですね。年齢によって市民からしたら健康づくり課なのか子育てなのか学校なのかっていうのがあると思うんですけど、今度29年度にですね発達支援のサポートファイルっていうのを作って、どういう状況で生まれて母子手帳のようなものなんですけど、ずっと持っててもらって、どういう支援を受けてきたのか、どういう状態で生まれてきたのかから始まって、どういう支援を誰にどこから受けたのか、あの主治医は誰かとかですね。そういうのをお母さんと子どもが大きくなったら本人も共有して、それをずっと持っていってもらって、いちいちその度説明しなくていいっていう、それ見てもらえれば。そういうものを今度作ります。それと年齢年齢で切れてしまうので、一応関係課が集まってですね。まあ小さくて見えないでしょうけど、こんな色々支援がありまして縦系列が年齢なんですけども穴が開いちゃっている所もあるんですね。これをどうするかっていうのも連絡会のようなものを作ってですね、あのやっているところですので。課題認識はありますのでちょっとずつやって行きたいと思います。

(**委員)

それと何か私の上の子の共通の友だち上級生のいるお母さんがいまして、その方なんかもクラスの中で一緒に学習をするのがちょっと難しい子がやっぱり入っちゃてるんだけど、やっぱりその人に親にしてみれば授業の妨げになってしまうパターンじゃないかっていう風に言ったりはするんだけど、その騒いでいる当事者のお母さんは絶対うちの子は普通っていう、やっぱそういう子は既にそういうところにいるので、もっと早くっていうか、そのお母さんもやんわりと受けられるように感じに体制が出来るといいなと思いました。

(菊池委員)

そうですね。母親へのそのサポートっていうのも大事だと思うので、そこも今スタッフ、力のあるスタッフを今揃えているので、ちょっとずつわかって頂ける方が結構増えてきたって、どういう伝え方をしているかは具体的には把握していませんけど、今まではですね集団で行動観察する所へ来て下さいね。来て下さいねってちょっと前まで電話を掛けまくってたっていう状態が普通に話してケース入れる場合もありますけども、それによつてですね、そんな電話しなくてもですね、スーッとあ、そうなんだっていう関わり方を変えるっていうかですね。この子はちょっと記憶メモリーが小さいので、だったら短い間隔で何回か言ってあげればいいんですよって、特性だけそれは対応すれば早く関わり方を変えれば早く変えてくってっていう、そういう丁寧に専門家が説明して、あ、そうなんだっていう感じで受け入れられて自然に流れてくってっていうのがちょっと出来つつあるので、もうちょっと

と充実させたいなあって思っています。

(**委員)

良くわかります。障害がある子どもを持つと親は特に乳幼児期、まあ小学校低学年あたりの時は受入れられないですよ。中々ね。不安があったり周りからの目っていうのがあったりするんで、そういうところをやっぱりサポート、長期的なサポートが凄く大事なのかなっていうのと、一番大事なのはやっぱり子どもがね一番よく将来大きくなっていく事と思っています。前から言われてたんですけど、幼児期までは福祉関係がサポートしているんですけど、小学校に行くと教育面でブチッと切られてしまって障害のある子っていうのは両方走らなくちゃいけないくて、継続してかなくちゃいけない所で何かカルテのような物を作られるということで凄く良いなと思っていますので、切られるとなお更親が困って行くところないわって不安になってしまうという事なんですけど、ぜひ充実させて頂きたいなあって思っています。あとは宜しいですか？

(**委員)

親の立場なんですけどね、やっぱり経験者の親の話を不安なお母さん達に伝えていくのが、親はお伺いできると良いよねって事で2年前にですね支援級の会親の会っていうのを支援級に行っているお母さん立ち上げました。で、声かけて、その家の子は金谷中の3年で今度卒業して、今度吉田の特別支援学校に高等部の金谷の方なんですけども、このお母さんの呼びかけで多分月1で金谷のみんなに集まって支援級に入っているお母さんの事と入ろうか入るまいか迷っているお母さんも、ぜひ来てねって感じで彼女を中心に声掛けして集まって当事者の会合をやっています。で、そこでは時々金谷小の支援学級に努めていらした男性の先生おじいちゃん先生なんですけど、その方もアドバイスに来てくれて駿遠学園の園長先生退職されますけど来て下さったりとか。という形でサポートをしているようですね。もし困っている方がいたら、はい。言ってください。

(**委員)

ありがとうございました。あの時間を少し押ししてしまったので、あの、またゆっくり後で話を頂ければ良いのかなって思います。

(事務局)

閉会の挨拶

閉会